

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

マザー・テレサの言葉「現代における最悪の病は、誰からも求められず、見捨てられていくという感情だ。」誰からも期待されず、

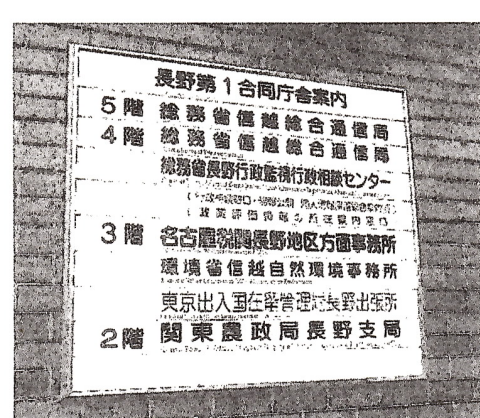
自らの何の希望も持てぬまま日々の暮らしを過ごす事は避けたいと、歳を重ねる毎に強く思ってきている。私の知人の加藤和郎さんは、NHKの記者時代、NHKアナウンサーのニュース原稿を読む速さが、1分間に300文字が標準。1分と原稿が指定されれば300字で書いたとの話を聞いた。1秒言葉は、「こんにちは」、「久しぶり」、「ありがとう」、「さようなら」。書き続けるコラムは、約4分弱の原稿量。毎回原稿に向かう時が、楽しい一時でもある。

4月より、総務大臣から行政相談委員の業務の依命を受けた。行政相談委員は、現在全国に約5000人、長野県内では134人が配置され、無報酬のボランティアとして、国の行政活動全般に関する苦情や相談を受け付け、相談者への助言や関係機関への連絡などを行っている。しかし4月に実施された業務説明会を受けるまでは、行政相談委員法に疎かったことも事実。白馬村では年間6回予定されている定例相談会では、どのような相

談でも相談者のお話を丁寧に聴く事を心掛けた。万葉集巻五、梅花の歌の項の序文が出典。表記は漢文で、読み下せば「初春の令月にして気淑(よ)く風和(やわ)らき」。漢籍ではなく日本の古典から

この時季ならではないだろうか。新聞のコラム中日春秋さんは伝えた。俳人の正岡子規は「故郷やどちらを見ても 山笑う」と春先からの明るさを詠んだ。大型連休楽しもうではないか。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

## 日々の出来事が笑顔で満たされる地域でありたい



長野県庁の北に位置する総務省長野行政監視行政相談センター、年間約2000件の相談を受け付けている